

2019年2月8日

報道関係者各位

<特別展のご案内>

# これぞ黄金の国・日本 金屏風展

## —狩野派・長谷川派・琳派など—

会期：2019年4月6日（土）～9月29日（日）



岡田美術館（館長・小林 忠）は、2019年4月6日（土）から9月29日（日）まで、特別展『これぞ黄金の国・日本 金屏風展 —狩野派・長谷川派・琳派など—』を開催いたします。何枚かのパネルが連続し折りたたむことのできる「屏風」は、中国で発祥して日本に伝わり、独自の発達を遂げた調度品です。とりわけ、「屏風絵」を黄金で加飾した「金屏風」は、国内で幅広く使われただけでなく、アジアやヨーロッパの国王などに進物としても贈られた、日本ならではの美術品でした。本展は、「日本美術の花」といえる金屏風によって展示室を埋め尽くす、豪華絢爛な特別展です。過去には、屏風をテーマにした、あるいは金屏風と蒔絵などの工芸品を併せた展覧会は各所で開催されてきましたが、金屏風だけで構成する企画は初の試みといえるでしょう。桃山時代から昭和初期にいたる、狩野派・長谷川派・琳派などの作品約30点が揃います。照り輝く金地、画面を力強く流れる金雲、たな引く金霞など、

金の表現方法は実に多様で、そこには金という素材に対する日本人の繊細な感性がうかがわれます。作品ごとに異なる金の使い方や、時代による変遷などに注目しながら、きらびやかな「黄金の空間」をお楽しみいただけます。

（\*会期中、一部展示替あり）

### 見どころ1

#### 金屏風尽くしの空間

金・金・金……めくるめく「黄金の空間」が広がります。

### 見どころ2

#### 2つの“The 金屏風”

「金屏風」のイメージを代表する2点の作品をご紹介します。

### 見どころ3

#### 素材と表現

同じ「金」でも素材や表現はさまざま。金屏風の技法に迫ります。

## 見どころ1 金屏風尽くしの空間

金・金・金……めくるめく「黄金の空間」が広がります。



①展示室（イメージ）

本展は、展示会場となる岡田美術館3階の4つの展示室を次のようなテーマによって構成します。

### 【展示構成】

- 第1室 金屏風隆盛（桃山時代～江戸時代前期）
- 第2室 名所と物語（江戸時代前期）
- 第3室 琳派の金屏風（江戸時代前期～近代）
- 第4室 優美・瀟洒な金屏風（江戸時代後期）／総金地屏風リバイバル（明治～昭和初期）



②狩野派「春夏花鳥図屏風」 桃山時代（17世紀初頭） 8曲1双

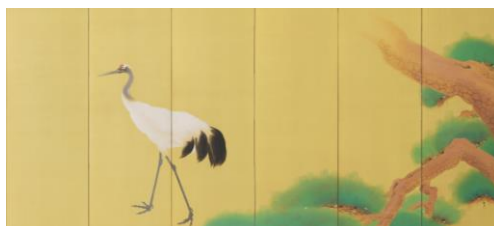
屏風は6曲1双（6枚折れで2枚1組）が一般的な中、数少ない桃山時代の8曲屏風として貴重な作品。



③尾形光琳「菊図屏風」 江戸時代前期 6曲1双 【展示期間 7/5（金）～9/29（日）】



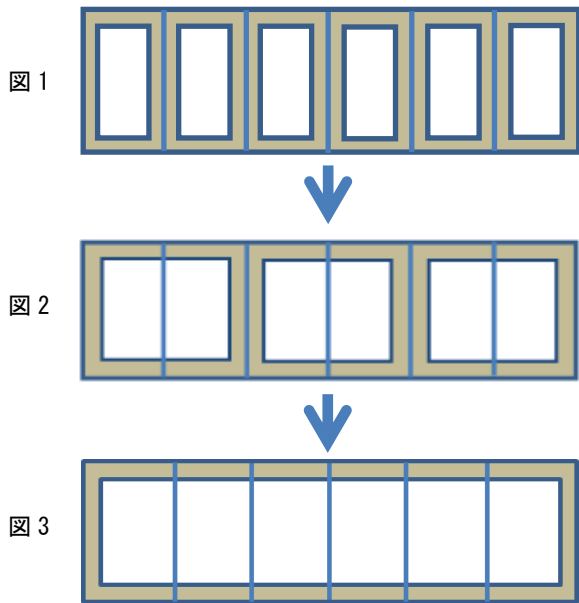
④木村武山「松に鶴図屏風」 昭和2年（1927） 6曲1双





### 【金屏風とは】

「屏風」は、文献上では『日本書紀』に初めてその語が確認され、実際の作品としては、奈良時代の正倉院御物に含まれるものが最古とされます。続く平安時代、鎌倉時代の作品はわずかで、数が増えるのは室町時代のこと。当時盛んであった水墨画の屏風と極彩色の屏風が描かれ、金で飾った豪華な「金屏風」が作られるようになりました。金屏風は、日常や儀礼の際の調度品として使われる一方、幕府や有力大名から中国・朝鮮・ヨーロッパの国王などに贈られ、外交上の重要な役割を果たしてきました。



興味深いことに、古い屏風絵は、1扇（パネル1枚）ごとに縁取りがされ、画面がつながっていませんでした（図1）。それが2扇ごとの縁取りになり（図2）、ついに全体が1つにつながったのが室町時代の始まる頃であったと考えられています（図3）。こうして大画面が可能となったことこそが、屏風絵の魅力を増し、金屏風のもつ大迫力を生んだのです。

▲屏風絵の縁取りの変遷  
6曲（6枚折れ）屏風の例。白い部分が絵。

琴を弾く女性の背後に名所絵の金屏風が立てられています。描かれているのは、京都東山にかつてあった大仏殿。本展では、このような画中画（絵の中の絵）の金屏風にも注目します。

部分図拡大▶



⑤「平家物語図屏風」(右隻) 江戸時代前期 6曲1双

## 見どころ2 2つの“The 金屏風”

「金屏風」のイメージを代表する2点の作品をご紹介します。

### 力強さと繊細さを兼ね備えた名品



⑥狩野派「春秋花鳥図屏風」桃山時代末期～江戸時代初期（17世紀初頭）6曲1双

右隻は、桜と海棠の花が咲き、孔雀の親子が憩う春景、左隻は萩や菊の花が揺れ、色づいた紅葉が枝を伸ばす秋景です。金箔による金色が画面の多くを占め、弾力や重量の感じられるような雲が広がっています。注目されるのは、手前から金雲、花木と鳥、別の金雲、対岸の景色の順に、それらを重ねるように描き、奥行を表していることです。この屏風は、狩野派が得意とした、重層的で重厚感のある金雲の表現と、桃山時代の力強さを残しつつ繊細・優美を志向する画風が見どころとなっています。

### 銀色の波の上にかかる黄金の橋の圧倒的な存在感



⑦「柳橋水車図屏風」江戸時代前期 6曲1双 【展示期間 4/6（土）～7/4（木）】

黄金に輝く橋のたもとに柳が揺れ、水車が田んぼに水を注いでいます。右隻右方の柔らかな枝に花を咲かせた柳から左隻左方の葉が伸びた柳まで、季節が移ろっていくようです。橋と柳、水車・蛇籠（竹を編んで石を詰めたもの）を組み合わせた豪華な「柳橋水車図屏風」は、桃山時代から江戸時代前期まで20点余りが知られ、宇治の風趣を描いたものとされてきました。金雲と景物を重層的に表し、橋桁や欄干、蛇籠、水車などを胡粉を盛り上げて立体的に表すなど、上の絵と似通った表現が見えます。もくもくとした形の雲は切箔（次ページ参照）によって存在感を強められ、幻想的な雰囲気を作り出しています。黒く見える波の線は銀が変色したもので、金色銀色を背景に柳の緑が映えたであろう当初の景色を想像しながらご鑑賞ください。

#### ◆屏風絵鑑賞のツボ◆

「小さく畳まれ大きく広がる」「どこにでも動く」という、素晴らしく使い勝手のよい道具である屏風は、折り曲げて置くことにより、三次元の奥行が生まれます。紙面やweb上に掲載されている平面に広げて撮影された画像とは違い、展示会場でご覧いただくのは自立して立体的に見える屏風絵たちです。平らに伸ばした屏風と、折って立てた屏風とを見比べると、後者の方が金雲も木々も草花も立体的に見えることがわかります。画家たちも、屏風の凹凸を確かに意識して各々の図柄を効果的に配置しています。

視覚だけでなく体感的に鑑賞できることが、調度たる屏風絵本来の魅力といえます。



### 見どころ3 素材と表現

同じ「金」でも素材や表現はさまざま。「金屏風」の技法に迫ります。

金屏風は、金箔をさまざまに加工した、各々表現効果の異なる素材によって加飾されています。その代表的なものをご紹介します。

#### 金箔（きんぱく）

金を叩いて薄く伸ばしたものです。一般的な金箔は少量の銀と銅を含み、厚さは約0.0001 mm。光沢が強く、豪華な画面を作る。箔の境目で重なった部分を箔足（はくあし）という。



尾形光琳「菊図屏風」  
右隻部分

#### 切箔（きりはく）

金箔を竹刀で細かく切ったもの。様々な形・大きさの光る文様が浮かび上がり、変化のある表情を生み出す。この絵では、雲の形によって金箔・切箔を使い分けている。



「柳橋水車図屏風」  
右隻部分

#### 金砂子（きんすなご）

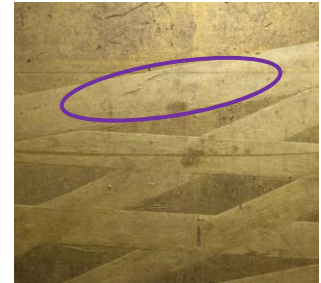
金箔を粉状にしたもの。光がちらちらと乱反射し、やわらかな光沢を放つ。密度によって濃淡が生まれるので、霞や霧の表現に適している。



「平家物語図屏風」  
右隻部分

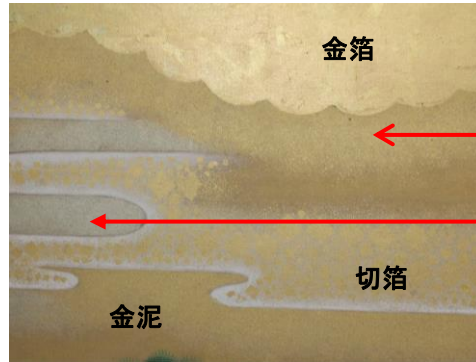
#### 金泥（きんでい）

金箔の細かな粉末を膠（にかわ）で溶いたもの。筆や刷毛を使って描く絵具の一種で、鈍い光沢をもつ。この絵では、金箔地に金泥で垣根を描いている。



「籬に藤花・紅葉図屏風」  
左隻部分

江戸後期のこの屏風は、上記の素材が全て使われるばかりでなく、金砂子は2種類の色味（銀の含有率が高く青みを帯びた、いわゆる青金と、銅の含有率が高く赤みを帯びた、いわゆる赤金）が蒔き分けられ、さながら「金の加飾のオンパレード」といえる作品です。ただし、素材が整然と配置されているので、桃山～江戸前期の頃の力強い金屏風とは異なる優美な雰囲気漂います。葵の御紋の金具が付くことから、徳川家の調度品として、幕府の御用絵師・狩野邦信が技術と贅を凝らして制作したものでしょう。



狩野邦信「源氏物語図屏風」江戸時代後期 8曲1双  
右隻：第23帖「初音」  
左隻：第34帖「若菜上」

## <講演会のご案内>

各回 13:00~14:30 / 岡田美術館 5階ホール / 定員 80名 / 参加費無料 (要入館料)

### ①「桃山の金屏風」

開催日：2019年5月25日(土)

講師：小林 忠 (岡田美術館 館長)

### ②「屏風を使う」

開催日：2019年6月22日(土)

講師：榊原 悟 氏 (岡崎市美術博物館 館長)

屏風絵研究の第一人者



岡崎市美術博物館 館長  
榊原 悟 氏



岡田美術館 館長  
小林 忠

### ③「琳派の金屏風」

開催日：2019年7月13日(土)

講師：小林 忠 (岡田美術館 館長)

#### ●お申し込み方法

電話にてお名前・人数・ご連絡先をお知らせください。TEL: 0460-87-3931

定員に達し次第、応募を締め切らせていただきます。

## <Okada Museum Chocolate のご紹介>

美術館専属のショコラティエ・三浦直樹が手がけるアートなチョコレートシリーズの中から、今回の金屏風展に出品される作品をモチーフにした2品をご紹介します。鑑賞後のお土産にぴったりです。

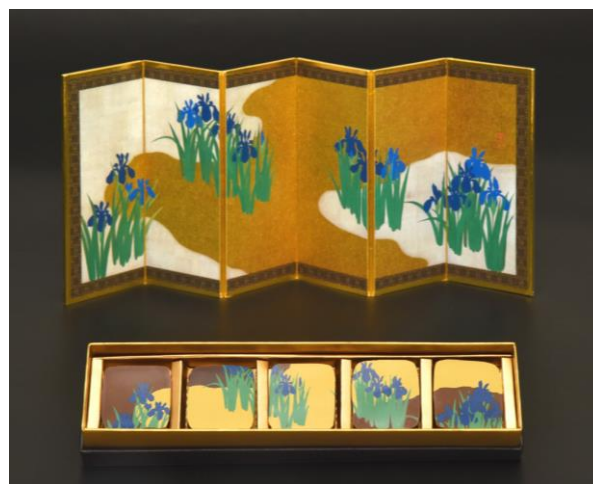


⑧Okada Museum Chocolate『光琳・菊』2,800円(税込)

松茸や安納芋など秋の味覚が詰まったボンボンショコラ

- 左から
- ①松茸×南瓜
  - ②和三盆糖×胡桃
  - ③安納芋×サフラン
  - ④柚子×マスカルポーネチーズ
  - ⑤宇治抹茶×黒豆

モチーフ：尾形光琳「菊図屏風」



⑨Okada Museum Chocolate『雪佳・燕子花』2,800円(税込)

はんなりとして美しいボンボンショコラ

- 左から
- ①桜×抹茶
  - ②木苺×イチジク
  - ③マスカルポーネチーズ×コーヒー
  - ④ゴルゴンゾーラチーズ×オレンジピール
  - ⑤自家製ジャンドウジャ

モチーフ：神坂雪佳「燕子花図屏風」



## 【庭園について】

春から夏にかけて、当館の庭園や敷地内では、約 400 株の様々な種類の牡丹や、紫陽花が咲き誇ります。美術鑑賞のあとは、箱根の美しい自然の中で過ごすひとときをお楽しみください。

⑩牡丹の群生（庭園） 開花時期：4月下旬～5月中旬頃



⑪紫陽花（敷地内沿道） 開花時期：6月～7月頃



## 【開催要項】

展覧会名 これぞ黄金の国・日本 金屏風展 一狩野派・長谷川派・琳派など 一

会期 2019年4月6日（土）～9月29日（日）

休館日 会期中休館日なし

主催 岡田美術館

所在地 神奈川県足柄下郡箱根町小涌谷 493-1

開館時間 9:00～17:00（入館は 16:30 まで）

入館料 一般・大学生 2,800 円（2,550 円） 小中高生 1,800 円（1,550 円）

※（ ）内は前売り料金。前売券（JTB レジャーチケット、チケットぴあ）は、  
主要コンビニエンスストア並びにチケットぴあにて販売

### <ギャラリートーク>

◎館長によるギャラリートーク：2019年4月18日、5月16日、6月6日・20日、7月4日・18日、  
8月1日・15日、9月5日・19日 いずれも木曜日午後1時30分～

◎学芸員によるギャラリートーク：2019年4月19日～9月20日の毎週金曜日開催 午前11時～

※申し込み不要／参加費無料（要入館料）

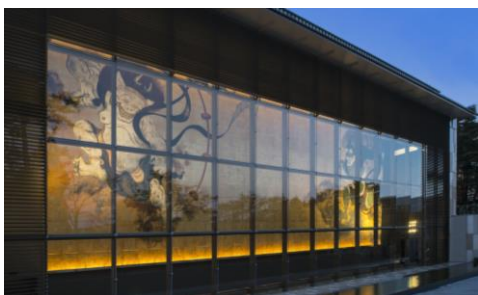
## 【本件に関するお問い合わせ先】

・岡田美術館 広報担当：近森・高橋

TEL：0460-87-3931 FAX：0460-87-3934 E-mail：pr@okada-museum.com

## 【岡田美術館について】

岡田美術館は2013年10月、箱根・小涌谷に開館しました。全5階、展示面積約5,000㎡という屋内展示面積としては箱根随一を誇る広大な館内に、日本・東洋の陶磁器や絵画などの美術品を常時約450点展示しています。日本で受け継がれてきた美術品を大切に守り、美と出会う楽しさを分かち合い、次代に伝え遺したい、との願いから、美術館が構想されました。美術館の正面を飾るのは、現代日本画家・福井江太郎氏によって描かれた縦12m、横30mに及ぶ風神・雷神の大壁画「風・刻（かぜ・とき）」（2013年）です。他にも深見陶冶、諸井謙司、樂雅臣といった現代作家の作品が屋内外に展示され、来館者をお迎えます。その他付帯施設もお楽しみください。



### 大壁画

琳派の祖ともいえる俵屋宗達の「風神雷神図屏風」をもとに、日本画家福井江太郎が現代に甦らせました。構想も含め5年の歳月を掛けて制作した大壁画「風・刻」が、皆様をお迎えます。

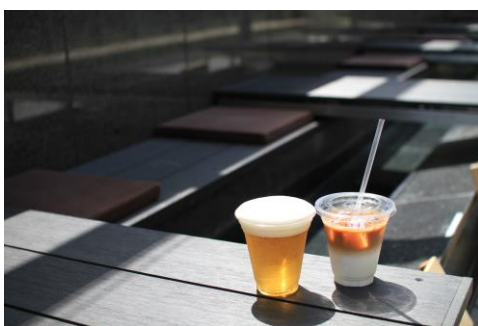
⑫美術館外観



### 開化亭

昭和初期の日本家屋を改装した風流な飲食施設「開化亭」は、明治半ば、この地にあった外国人向けホテルにちなんで名づけられました。趣ある古いガラス戸の向こうには、2か所に滝が流れ落ち鯉が回遊する池と、季節によって表情を変える庭園の木立が広がっています。「名物豆アジ天うどん」をはじめ、各種ドリンクなどをご用意しています。

⑬開化亭（初夏）



### 足湯カフェ

風神・雷神の大壁画を前にした100%源泉かけ流しの足湯カフェでは、コーヒー、ビール、おしるこなどをお楽しみいただけます。中でも静岡県産の茶葉を使用した和紅茶は、「食のオスカー」とも呼ばれる『Great Taste Awards（英国）』で金賞を受賞した逸品です。

⑭足湯カフェ



### ミュージアムショップ

「美術館の感動を日常でも楽しめる」をコンセプトに、普段の生活に彩りを添える、温かみのあるオリジナルグッズをご用意しております。定番のポストカードや一筆箋をはじめとする文具、温泉地には欠かせない手ぬぐいや雑貨など、幅広い年代にお使いいただけるラインナップとなっております。

⑮ミュージアムグッズ




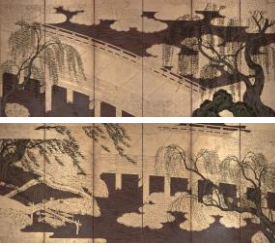




# これぞ黄金の国・日本 金屏風展

## 広報用画像

広報用画像をご使用の際は下記の点にご注意ください。

- \* 写真データの使用は本展覧会の紹介目的に限り、二次使用や改変（部分使用含む）は行わないでください。
  - \* ご使用後2週間以内に、当館より貸与した写真データ（以下原データという）を記録した媒体は当館に返却のうえ、保有する原データ（作業上発生したすべての原データの複製物及び複製データを含む）は消去してください。
  - \* web掲載の際は「画像写真の無断転載を禁じる」旨を表記してください。
  - \* 作品写真には「岡田美術館蔵」、作者名または産地、作品名、制作年ほか当館の指定する項目を表記してください。  
スペースに限りがあり、すべての記載が難しい場合は別途ご相談ください。
  - \* ご紹介いただく際は、本展の基本情報（日時・会場・電話番号・写真キャプションなど）の確認のため、校正を岡田美術館広報担当者までメールまたはFAXでお送りください。
- ※下記素材以外の写真データが必要な場合は、別途お問い合わせ願います。

			
<p>①展示室（イメージ）</p>	<p>②春夏花鳥図屏風（部分）</p>	<p>③菊図屏風（部分）</p>	<p>④松に鶴図屏風（部分）</p>
			
<p>⑤平家物語図屏風（右隻部分）</p>	<p>⑥春秋花鳥図屏風（部分）</p>	<p>⑦柳橋水車図屏風（部分）</p>	<p>⑧Okada Museum Chocolate 『光琳・菊』</p>
			
<p>⑨Okada Museum Chocolate 『雪佳・燕子花』</p>	<p>⑩牡丹</p>	<p>⑪紫陽花</p>	<p>⑫美術館外観</p>
			
<p>⑬開化亭（初夏）</p>	<p>⑭足湯カフェ</p>	<p>⑮ミュージアムグッズ</p>	

これぞ黄金の国・日本 金屏風展 広報用画像データ貸出申込書

プレスリリースをご参照の上、ご希望の写真 No. に✓印をお付けください。

✓	No.	掲載時のキャプション
	1	展示室 (イメージ)
	2	狩野派「春夏花鳥図屏風」(部分) 桃山時代 (17世紀初頭) 岡田美術館蔵
	3	尾形光琳「菊図屏風」(部分) 江戸時代前期 岡田美術館蔵 【展示期間 7/5 (金) ~9/29 (日)】
	4	木村武山「松に鶴図屏風」(部分) 昭和2年 (1927) 岡田美術館蔵
	5	「平家物語図屏風」(右隻部分) 江戸時代前期 岡田美術館蔵
	6	狩野派「春秋花鳥図屏風」(部分) 桃山時代末期~江戸時代初期 (17世紀初頭) 岡田美術館蔵
	7	「柳橋水車図屏風」(部分) 江戸時代前期 岡田美術館蔵 【展示期間 4/6 (土) ~7/4 (木)】
	8	Okada Museum Chocolate 『光琳・菊』2,800円 (税込)
	9	Okada Museum Chocolate 『雪佳・燕子花』2,800円 (税込)
	10	牡丹
	11	紫陽花
	12	美術館外観
	13	開化亭
	14	足湯カフェ
	15	ミュージアムグッズ

申し込みフォーム

貴社名			
媒体名			
ご担当者様名		TEL	
部署名		FAX	
E-mail			
ご住所	〒 —		
放送・掲載内容			
放送・掲載予定日	年 月 日	放映エリア/ 発行部数	
画像データ 必要期限	年 月 日		

プレゼント用招待券 (最大5組10枚) ご希望の方はご記入ください	組	枚
-----------------------------------	---	---